日中国民交流友好年 始まる

西安観光セミナー皮切りに

日中国交正常化40周年を記念する2012「日中国民交流友好年」の各種行事が、日中両国でいよいよ始まった。西安市から周愛全西安市観光局局長を団長とする100人の観光代表団が来日し、1月31日、西安観光説明会をホテルオークラ東京で開いた。同友好年の記念ロゴを配した観光業界初のイベントとなった。2月16日には、両国要人の出席のもと、同友好年の開会式が北京で盛大に開かれた。

小天鵝芸術団によるショー

両国観光交流の第1弾として西安市から来日した代表団は、観光行政各機関のほか、旅行会社、新聞社、テレビ局、博物館、芸術団の代表者などで構成。日本の旅行会社、メディア関係者らに、「歴史文化の都」と「著しく変貌する都市」の2面の魅力をアピールした。同会場内で「古都西安写真展」も同時に開催した。

説明会の冒頭、韓志強中国駐日本大使館公使と周愛全西安市観光局局長があいさつ。これに対して日本側は、二階俊博衆議院議員（全国旅行業協会会長、元運輸大臣、元経済産業大臣）、山田尚義観光庁審議官、金井耿日本旅行業協会会長が登壇し、日中国民交流友好年の成功を誓い合った。

代表団には小天鵝芸術団に所属する小学生の少女60人も同行。観光説明会で愛くるしい踊りなどを披露し、喝采を浴びた。

あいさつする程永華大使

また、少女たちは、前日の1月30日に国会議事堂を見学。衆議院議員会館で、遠藤乙彦衆議院議員（日中新世紀会会長）、西博義衆議院議員、山井和則衆議院議員と交流した。

同代表団は続いて北海道を訪れ、2日、京王プラザホテル札幌で同様の西安観光説明会を開いた。訪日中国人旅行客に特に人気の高い北海道の地で、双方向の観光交流の拡大を呼びかけた。

代表団の主なメンバーは以下の通り。▽周愛全西安市観光局局長▽惠毅西安テレビ総編集長▽万鼎陝西省美術家協会副主席・画家▽岳莉中国山水画家▽袁平西安市観光局国際市場開発所所長▽李小燕西安市観光局インフォメーションセンター長▽沈亮西安市観光局マーケティング課長▽池静西安大唐芙蓉園景区分公司社長▽鄭哲陝西新世界航空国際旅行社社長▽任佳琳西安テレビ局ニュース総合チャンネルプロデューサー▽岳大偉西安テレビ局ニュース部プロデューサー▽焦景泉西安市写真家協会副主席・写真家▽邱子渝陝西歴史博物館研究員・文物写真家▽苟玲玲中国旅行社総社西北有限公司ガイド▽蔡雲鵬陝西中国旅行社有限責任公司社長▽高卓陝西中国旅行社有限責任公司事務室主任▽張小浜中国旅行社総社西北有限公司副社長▽韋瑋西安中旅国際旅行社有限公司社長▽王安仁西安天馬国際旅行社社長▽楊舒陝西阪西国際旅行社有限公司会長▽宋軍民陝西大興湯峪温泉開発有限公司会長▽李晶西安日報社記者▽李叢小天鵝芸術団団長。

議員会館で国会議員と交流

古都西安写真展

小学生60人の芸術団来日
著名画家の水画展、開催

文化交流の開幕に 山水画の展覧会
東京中国文化センターで

同代表団の一員として来日した画家の万鼎陝西省美術家協会副主席（西安美術学院山水画教授、西安中国画院副院長）が描いた、西安の南西に連なる秦嶺山脈の山水画展「万鼎―大秦嶺を見出して、その神をお描きになっているのだろうと感じる。これからも中国から世界平和、宇宙から平和を与えるような作品を発表し続けていただきたい」と返礼。その上で「今年は両国にとって特別な年だ。日本と中国がさらにさまざまなレベルで交流を深める年になる」と強調した。

山水画展の開会式

万鼎画伯による実演

開会式に続いて、万鼎氏が来賓らの前で山水画制作を実演。大胆さと精緻さを兼ね備えた絶妙な筆致を披露した。同山水画展は16日まで開かれた。

山水画展」の開会式が1日、展覧会場の東京中国文化センターで開かれた。

鳩山由紀夫元首相（写真中央右）、程永華駐日本特命全権大使（同中央左）、二階俊博衆議院議員（同右から3人目）、溝畑宏観光庁長官（同右から2人目）、周愛全西安市観光局局長（同左から3人目）らがテープカットを実施。日中国民交流友好年の重点分野の1つ、文化交流の開幕を飾った。

程大使はあいさつで「現在は西安となっている古都長安は、中国のいくつかの王朝の都であり、ここには阿倍仲麻呂、空海など多くの遣唐使の記録も残っている。また山水画展のテーマとなっている秦嶺は中華文化発祥の地であり、日本とも関係が深い朱鷺の生息地としても有名だ」と述べ、同展開催の意義を紹介した。

これに対して鳩山元首相は「万鼎先生は、山という大きな自然、まさに宇宙から授かった自然の背後に神

友好年の開幕式 16日に北京で開催

日中国民交流友好年の開幕式が2月16日、北京で開かれた。日本からは首相特使の直島正行元経産相、米倉弘昌日中国民交流友好年実行委員長、丹羽宇一郎中国大使らが、中国からは劉延東国務委員、蔡武文化相らが出席した。

蔡文化相は「中日友好の基礎は民間にある。中日関係の未来は両国人民が手を携えることで創造しなければならない」という温家宝総理の祝辞を読み上げた。

日本は開幕式に合わせて「元気な日本」展示会を19日まで実施。日本料理の試食や観光PRなども行った。

同展示会には、日中国民交流友好年親善大使の関口知宏さんとAKB48も参加。AKBのミニライブも行い、日本の魅力と元気をアピールした。

AKBと関口さん 友好年親善大使に

アイドル歌手グループのAKB48と俳優の関口知宏さんが2012「日中国民交流友好年」の親善大使に就任した。日中国民交流友好年実行委員会は2月13日、米倉弘昌実行委員長（日本経団連会長）からAKB48のメンバーと関口さんに委嘱状を手渡した。

AKB48は日本のポップカルチャーの象徴的存在として中国の若者たちにも絶大な人気を誇る。関口さんは、07年にNHK番組「中国鉄道大紀行」で、ラサからカシュガルまで中国大陸の鉄道3万6千キロメートルを走破。行く先々で、多くの中国人と出会い、交流し、〝絆〟を深めた。

AKB48のメンバーと関口さんは、任期の12年12月31日まで可能な限りのイベントに出演し、日中両国民の相互理解と友好関係の促進に努める。

日中友好 7つの重点事項

「新たな出会い、心の絆」
（中国語「新的相遇、心的絆帯」）

日中国交正常化40周年記念事業では、相手国との接点がなかった人々の参加を促し、新たな出会いを創出することで交流のすそ野を広げていくことを目指している。交流の基本は「心（ハート）」であることから「Chi na」と「Japan」の頭文字であるCとJを合わせてハートを形作っている。

2012
日中国民交流友好年
新たな出会い、心の絆

今年は次の7つの重点分野を中心にさまざまな行事が行われる。いずれの分野も日本の観光業界と密接にかかわっている。

1（将来の日中関係を担う）
青少年の交流

青少年の交流強化は、次世代の日中関係だけでなく、日中双方の国民感情改善のためにも極めて重要だ。

2（全国レベルの交流を促進するための）
地方間交流

日中間には現在、数多くの姉妹都市提携がある。地方レベルでの交流は、草の根交流として相互理解を促進する上で大いに意義がある。地域経済振興観点からも、貿易、投資、観光分野などを中心に日中両国で地方間交流を活性化することは有意義だ。

3（長きにわたる日中間の交流を再確認するための）
文化・スポーツ交流

日中間には長きにわたる文化交流の歴史がある。伝統文化だけでなく、ポップカルチャー、日本人のライフスタイルなど現代日本に関する多面的な情報や交流機会に接するチャンスを増やすことにより、新しい日本と日本のイメージを確立し、「等身大」の対日理解促進に務める。

4（幅広い交流を固めるための）
草の根交流

国交正常化後40年にわたって日中間で積み上げられてきたさまざまな交流の実績に焦点を当て、それらの実績を固めるとともに、2012年を全国的な交流の1年とし、12年以降の交流をさらに活性化する機会とする。

5（日中双方の各種文化を実体験する）
観光交流

日中間の観光交流は近年、着実に拡大する傾向にあったが、東日本大震災などの影響により、海外から日本への観光客が大幅に減少している。観光交流は歴史、文化、自然、風俗習慣、食文化、も含めた多面的な相互理解の促進にとって極めて有効なツールであり、経済的な効果も期待できる。

6（新たな経済関係に向けた）
経済交流

中国経済の発展、拡大に伴って、日中間の経済関係にも大きな変化が生じつつある。こうした中でお互いの経済の実情について相互理解の増進を図り、日中間で関心の高いテーマ（環境、エネルギー、農産物貿易など）について交流を深めることは重要だ。

7（東日本大震災の）
被災地支援

東日本大震災に対する支援は最優先課題であり、風評被害対策、観光促進・復興支援関連事業と、日中国交正常化40周年記念事業との有機的な連携を図ることが必要だ。また上述6つの交流において、東日本大震災からの復興支援の観点、および被災地の希望を踏まえつつ、可能な限り被災地への支援となるようなイベントの実施に努める。